

Shining ほいく



《今回の掲載内容》

- ① 「感染症と予防接種」・・・研修報告
- ② 「就学前の保育」・・・実践報告
- ③ 「バルシューレ（ボール運動遊び）」・・・実践報告



No.35：令和3年2月4日発行
編集・発行 保育サービス課研修担当



令和2年10月7日（水）「感染症と予防接種」：講師 国立感染症研究所医師 多屋 馨子先生

上板橋保育園：研修で学んだこと・感じたこと

保育施設における感染症の予防と対策および
予防接種について最新の情報を学ぶ



10月7日に国立感染症研究所の多屋馨子先生の研修を受けてきました。

多屋先生は毎年板橋区で研修をしてくださっているので、何度か受講させていただいています。

研修内容は「保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）」の内容、各感染症の説明、予防接種の必要性などでした。今回、一番聞きたかったことは新型コロナウイルス感染症のことや板橋区立保育園看護師会で検討している尿汚染の取り扱いについてでした。スタンダードプリコーション（標準予防策）は感染症の有無に関わらず、未知の感染症に対しても予防策を講じるという考え方です。すなわち、すべての血液・汗を除く体液・分泌物・排泄物・傷のある皮膚・粘膜などすべて感染源とみなし、予防策を講じることをいいます。病院では一般的に行われているのですが、保育園ではなかなか浸透していないのが現実です。この中で今まではおもらしをしたときなどは水拭きで対処をしていましたが、本当にそれで大丈夫なのかという疑問がありました。尿中には、サイトメガロウイルスやムンプスウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルスなどが含まれています。おたふくかぜや麻疹、風疹にり患している園児が登園してくることはありませんが、サイトメガロウイルスは健康な乳児の尿に大量に含まれているそうです。サイトメガロウイルスは一般的には感染しても無症状ですが、妊婦が感染すると母体を通じて胎児に感染することもあります。胎児に感染するとなんらかの障がいが出る場合もあるけれど、サイトメガロウイルスはアルコールや次亜塩素酸ナトリウムで消毒ができるし、何よりも手洗いで予防ができます。研修を聞くまでサイトメガロウイルスのことを知らなかったし、妊婦に影響があることも知りませんでした。保育園は保護者、職員も含めて、産婦人科の次に妊婦が多い場所と以前の研修で聞いたことがあります。妊婦さんに情報が行き届くように研修内容を発信したり、看護師会で保健管理業務の手引きの追加修正をしたりしていかねばいけないと感じました。

また、多屋先生の研修では毎年様々な感染症が流行していることを教えてくださいますが、今年は感染症の流行の山が全然ないと教わりました。これは、新型コロナウイルス感染症の流行により手洗い・消毒・マスクを着用し感染予防に努めた結果だそうです。上板橋保育園でも今年度の登園許可証は数枚しかなく、一度も感染症は流行しませんでした。新型コロナウイルス感染症は私たちが不自由な生活にしたり、ストレスを与えたり、嬉しいことは一つありませんが、その中でも子どもたちが感染症にかからなかったのは唯一の救いだと思いました。



坂下三丁目保育園：研修で学んだこと・実践報告

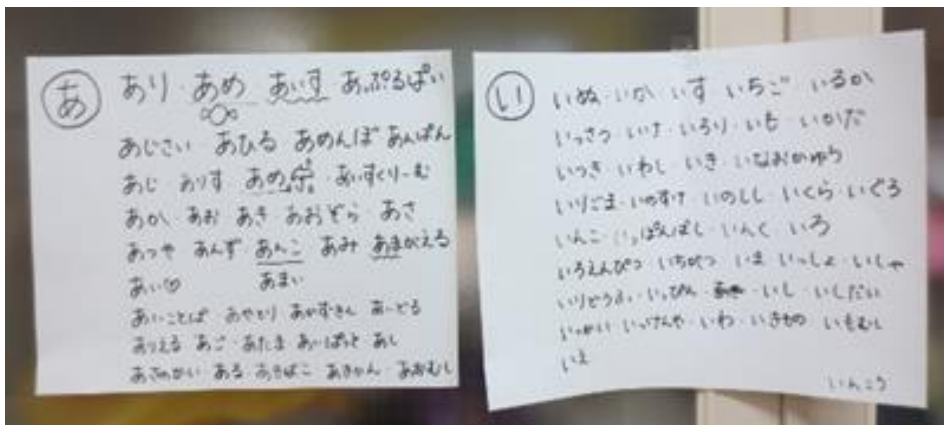
小学校への接続を見通し、非認知能力を育み就学を見据えた保育のあり方を学ぶ

令和2年10月、増田先生の研修で小学一年生での暴力行為がとても増えているとの事実を知り、とても衝撃を受けると共に悲しい気持ちになりました。そのようにならないために保育園現場で出来る事、思いを言葉で伝えられるようコミュニケーション力をつけていくことの大切を感じました。以前、増田先生助言の元に取り組んだ継続研修の中でも、コミュニケーション力の大切さを教えていただいたことから、4歳児クラスでは思いを言葉にして伝えられるようになるには・・・どのようなアプローチができるかを考えるところから新年度がスタートしました。

そして、その中から1年間継続して取り組んできたのは、経験したことを言葉にして伝える生活発表です。いつ、誰が、何をしたか、そしてどう思ったか(感想)をポイントとして伝えるよう繰り返し取り組んできました。話す側も内容をまとめやすかったことと、まとめることで、短時間で発表が進んでいくため聞いている子も集中して聞くことができていました。また、経験したことを絵に描いて、その絵を見せながら話す取り組みもしてきました。何か物を持つことで安心感があり、みんなの前でも落ち着いて話すことができていたようです。みんなの前で話すことが苦手な子も、少しずつ自信をつけて話せるようになってきました。



おやすみのとき、かぞくでこうえんにいってびくにくくをしました。たのしかったです！



その後取り組んだのは、しりとり。最初は、理解の差もあり、最後の文字から始まる言葉が分からず止まってしまう子もいました。言葉が出にくい子を最初にし、沢山の名詞が出やすい頭文字を当てるなどして、言葉を引き出していけるよう関わってきました。それを繰り返していくうちに、他の友だちからヒントを出す様子が見られるようになり、子ども達の成長を実感しています。

今後は、5才児クラスに進級することを見据えて、言葉集めを楽しみながら、同じ頭文字から始まる2文字・3文字をメロディーに乗せて歌う「あいうえあそびうた」の取り組みを進めていきたいと思っています。



相生保育園：研修で学んだこと・実践報告

～ドイツ発 子どものために
生まれたボールあそび～

バルシューレとは？

ドイツ・ハイデルベルク大学で創設された子どものための
ボール運動教室である。

「すべての子どもにスポーツを」という主旨で始まった
バルシューレは、最新のスポーツ科学の知見に基づき、
次の4つのスローガンに従っている。

- ・多面的な運動を経験すること
- ・子どもは小さな大人ではない
- ・遊び(ゲーム)が上達の最上の道
- ・習う前にやってみること

ボール遊びを通して、子どもの判断力、空間把握
能力などが身に付けられるように発達特徴に合わ
せた様々な動きを学ぶ



二人組でトンネルコロコロ

こんなトンネルはどう？
こどもたちからもアイデ
ィアがとびだします。

やったー
入った！



転がってくる黄色のボールに当てよう！



風船羽子板





遠くに投げよう!

大人はつい、「こうしたら上手くいくんじゃない?」とアドバイスをしたくなるものですが、バルシューレの理念は、「教えない!」「とにかく繰り返し経験してみること!」

保育士は楽しい雰囲気作りをして、成功したら一緒に喜ぶことで、自己肯定感が高まっていくようです。

ゲームプレーで楽しく遊ぶ中で自然と自ら考え、状況を判断する力がついていきます!



的に当てよう!

落とさないように歩くの難しい〜
これも子どものアイディアです



雪合戦ごっこ お宝ボールをわらえ!



お手五頭乗せルー



雪合戦用の盾も
作りました

「学習の成果を体験できる遊びやゲーム⇒ドーパミン⇒楽しみ⇒次の学習の動機となる。大人より子どもの方がドーパミン受容器の数が多いため、この公式は子どもの場合に特に効果が大きいとされ、うまくいった体験を味わうことができる遊びやゲームは子どもにとってまさに「ドーパミンの宝庫」となりうる。このように、運動を楽しむことで、無意識のうちに基本となるスキルを身につけることができる。

～子どものボールゲーム指導プログラム バルシューレ 抜粋～